

すくすく健やか! 山日YBS子育て応援プロジェクト



「2人目不妊」原因は?

婦人クリニック専門医に聞く

二人目、三人目…の妊娠を望んでいても、なかなか子宝に恵まれないケースがある。「二人目不妊」とも呼ばれ、排卵障害や精子異常などが原因となり治療が必要な場合がある一方で、授乳中やセックスストレスなど産後の生活の変化が原因のものもあるそうだ。吉田婦人クリニック(昭和町清水新居)の吉田孝二院長に聞いた。

不妊症は、一度も妊娠の経験がない原発性不妊症と、流産や子宮外妊娠などを含めて今までに妊娠の経験があっても妊娠しない続発性不妊症とに分けられる。いわゆる「二人目不妊」は後者に入り、原発性と続発性の割合は半々くらいだという。

日本産科婦人科学会は、生殖可能な年齢で妊娠を希望し、性交があるにもかかわらず2年以上妊娠しない場合を不妊症と定義している。米国の学会では「1年以上」と定義されていることを踏まえ、最近では年齢などを考慮しながら1年でも不妊予備軍と考え検査を勧めている。

授乳中は排卵抑制

不妊の原因には①排卵障害②卵管障害③精子の異常④受精障害⑤着床障害などがある。吉田医師は「産後に不妊の原因と



吉田孝二医師

病気以外に産後の生活変化も

なる状態が現れるケースもある。妊娠した経験があるからといって安心せずに、検査して」と勧める。

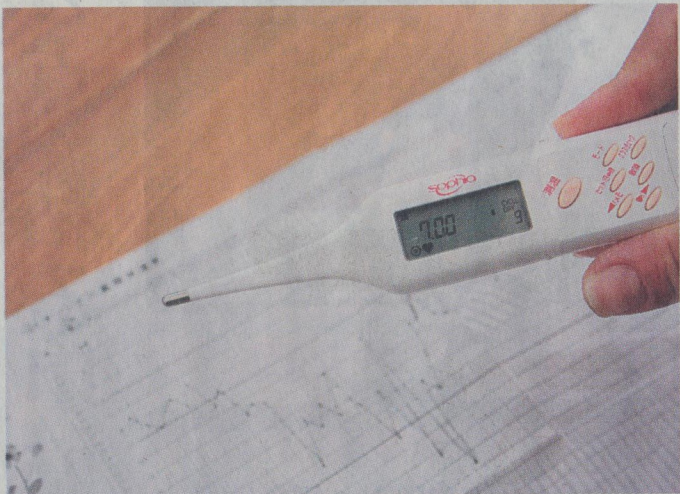
生活環境の変化によって妊娠しない場合もあるため、受診前に確認するポイントがある。授乳中は排卵を抑制するプロラクチンというホルモンが分泌されて生理が来ないため、妊娠しない。授乳中でも生理が来る人があるが、卵子の質が悪く妊娠しにくいという。排卵のタイミングが合わずに妊娠しないケースや、出産後のセックスストレスで性交回数が少ないことが原因の人もある。

基礎体温グラフに

吉田医師は①授乳中か②妊娠を望んでから1年以上経過しているか③生理が定期的にあるかの3点を踏まえた上での受診を勧める。さらに、受診前の最低3カ月間は基礎体温を測り、グラフ化しておくことと診断の目安になるという。

不妊症の検査は、基礎体温測定のほか、血液検査、尿検査、超音波検査、卵管疎通性検査、頸管粘液検査、性交後試験、精液検査などさまざまある。原因が特定できれば、それに対する治療を行い、原因がなかったり、分からなかったりした場合は、最も妊娠しやすい排卵の時期に合わせて性交渉をするタイミング療法を行い、その後の経過をみながら排卵誘発剤の使用や体外受精などを検討するという。

年齢が上がるにつれて妊娠率が低下するため、「不妊治療を急ぎたい」という人も多いだろう。これに対し吉田医師は「ストレスやプレッシャーが妊娠の妨げになる場合もある。個人差があり一概にはいえないが、『一度妊娠できたんだから大丈夫』とゆつくり構えて取り組んでほしい」とアドバイスしている。



受診の前には基礎体温を測って、グラフ化しておくことと診断の目安になる。